



# 国立民族学博物館 友の会ニュース

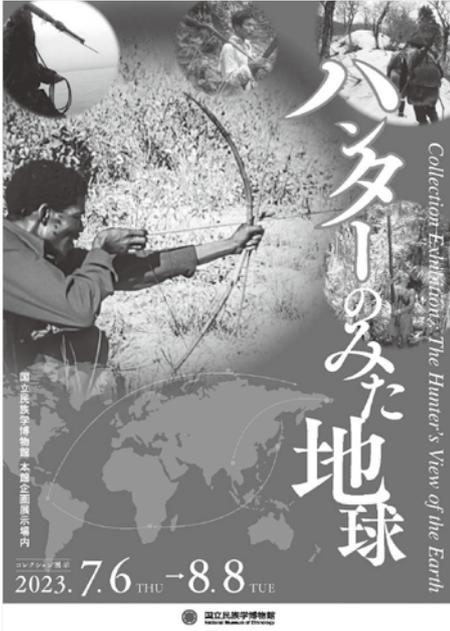
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No.280

2023.7▶8

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しみ、積極的に活用するためにつくられました。

発行 2023年7月1日  
編集・発行 公益財団法人千里文化財団



コレクシヨン展「ハンターのみた地球」が開幕します。  
ビーズや焼畑をテーマに、特別展や企画展を展開してきた池谷和信先生が、世界各地の狩猟採集民の暮らしを訪ね歩いた、その足跡をたどるような構成の展示です。日本のクマ狩りに始まり、アフリカのカラハリ砂漠、アマゾンや熱帯アジア、極北など、異なる環境下の狩猟を追い続けている池谷先生。狩猟という行為には、肉の獲得のみならず、狩る楽しさや獲物を分かち合うなかで培われた「人とのつながり」を求めるといふ人間らしさの根本が隠されているといえます。

展示場では、先生ご本人が撮影された写真や映像、収蔵資料とともに、各地のハンターに弟子入りした際のエピソードも紹介されています。また、コレクシヨン展を糸口に、本館展示にも視野を拡げて、世界各地の狩猟の文化に関心を寄せてほしいとおっしゃっていました。

会期中には関連イベントとして、友の会講演会も開催します。コレクシヨン展とあわせて、是非ご参加ください。

開幕!

コレクシヨン展  
ハンターのみた地球

会期 2023年7月6日(木)～8月8日(火)  
会場 本館 企画展示場

## 友の会の関連イベント!

### 第539回友の会講演会

## 人類の原点はハンターにあり!

話者 関野 吉晴(探検家)、池谷 和信(民博教授)  
日時 8月5日(土)13:30～15:00(開場13:00)  
会場 本館 第5セミナー室

人類拡散の旅(グレートジャーニー)を逆ルートからたどった探検家・関野吉晴氏と世界各地の狩猟採集社会の調査を続ける池谷先生がハンターについて語り合います。詳しくは、本紙5ページをご覧ください。友の会講演会の他にも、以下の関連イベントが予定されています。

7/8(土)、8/6(日) ギャラリートーク 池谷 和信  
7/23(日) みんぱくウィークエンド・サロン 池谷 和信  
7/30(日) ギャラリートーク  
海部 陽介(東京大学総合研究博物館教授)、池谷 和信

## 千里文化財団の新刊

### 図説 焼畑の民 ——五木村と世界をつなぐ

池谷 和信 編

森林破壊の原因のひとつとされ、世界的には衰退しつつある焼畑。しかし、焼畑をなりわいとする人びとは、森の自然回復の過程で変わりゆく植生に応じて多様な資源を利用し、自然と豊かな関係を築いています。「焼畑の民」の暮らしから、わたしたちの暮らしをみつめ直す1冊。

B5判、48頁(オールカラー)  
会員価格:836円、一般価格:880円(共に税込)  
発行・千里文化財団



## 友の会機関誌『季刊民族学』185号

### 特集 ビーズ大陸アフリカ(仮)

アフリカは、およそ30万年前にホモ・サピエンスの誕生した地であると同時に12～10万年前に人類最古のビーズが生まれた地域のひとつとして知られています。その後、アフリカにはインドやヨーロッパ産のガラスビーズが伝来し、世界のなかでユニーク、かつ多彩なビーズ文化が展開してきました。ビーズ素材の多様な広がり、ガラスビーズの導入過程、現代アフリカにおけるビーズの役割など、ビーズを通してみえてくるアフリカ社会の過去と現在を紹介します。

#### 特集執筆者

池谷和信、遠藤仁、竹沢尚一郎、鈴木英明、中村香子、緒方しらべ、宮本佳和、北窓恵利香

A4判、104頁/2023年7月31日発行  
会員価格:2,200円、一般価格:2,750円(共に税込)  
発行・千里文化財団

お問い合わせ

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ(水曜日定休) e-mail shop@senri-f.or.jp  
オンラインショップ「World Wide Bazaar」 <https://www.senri-f.or.jp/shop/>

上記の刊行物は、民博ミュージアム・ショップ、オンラインショップのほか、一般書店でもご購入いただけます(書店でのご購入は一般価格)。

秋は展示が目白押し！

ひと足お先に、みんなの特別展と企画展、そして友の会の関連イベントをご紹介します。今年にはエントランスホールイベントも予定しています。

展示と催し、あわせてご予約ください。

エントランスホールイベント

田主誠 Museum of Dreams

—— みんなと歩んだ版画家の創作世界

会期：9月7日(木)～11月28日(火)  
会場：本館1階 エントランスホール

版画家・田主誠(1942-2023.3.17)はみんなの開館当初から広報誌『月刊みんな』や『民博通信』の挿画をはじめ、みんなの研究者とコラボレーションする形で新聞や雑誌の仕事を数多く手掛けました。みんなとともに歩み、みんなから広がった体験や交流を心と表現の糧とした版画家の創作世界的一端をお楽しみください。



会期中に3期に分けて展示替えをおこないます。

特別展

交感する神と人

—— ヒンドゥー神像の世界

会期：9月14日(木)～12月5日(火)  
会場：特別展示館

ヒンドゥー教のあまたの神がみは、土器、陶器、仮面、絵画や印刷物、さらには絵本、コミック、切手やシールなど、さまざまなモノを通じて現れています。こういった神像は人びとが五感を通じて神と交流するための重要な媒体となってきました。多彩なヒンドゥー教の神像を展示するとともに、神と人との交流の姿を紹介して、人びとが神がみにささげる愛や願いのかたちに迫ります。

●友の会講演会【東京】 ※詳細は5ページ  
9月17日(日) / モンベル渋谷店5階サロン  
講師：竹村 嘉晃(平安女学院大学准教授)

●友の会講演会【大阪】  
12月2日(土) / 第5セミナー室  
※会員はオンライン配信あり！  
講師：福内 千絵(大阪芸術大学非常勤講師)



パール・ゴーパール  
(クリシュナ・ターバン・衣装・首飾り・腕輪付き) インド  
撮影・増田大輔  
撮影協力・株式会社エスバ

企画展

カナダ北西海岸先住民のアート

—— スクリーン版画の世界

会期：9月7日(木)～12月12日(火)  
会場：本館 企画展示場

カナダの太平洋沿岸には、ハイダヤクワクワカクワ、海岸セイリッシュラの先住民族が住んでいます。1960年代頃から伝統的文化の復興や創造的継承が始まり、今日に至っていますが、この動きをけん引したもののひとつが、スクリーン版画の制作でした。本展示では、ユニークな北西海岸先住民版画を紹介するとともに、社会変化と版画の変化との対応関係を提示します。

●友の会講演会【大阪】  
10月7日(土) / 第5セミナー室  
※会員はオンライン配信あり！  
講師：岸上 伸啓(民博教授)



スクリーン版画「カエル (Kwagulth frog)」  
民族：クワクワカクワ (Kwakwaka'wakw)  
リチャード・ハント (Richard Hunt) 作 1980年制作

東京講演会 実施報告

■第133回■2023年4月29日(土祝) 会場：モンベル御徒町店

インド洋西海域の奴隷制と奴隷交易

鈴木英明(民博准教授)

今回の東京講演会では、インド洋西海域の奴隷制について、現在に残された痕跡にもふれながらその歴史を辿り、大西洋の奴隷交易、また北アメリカ大陸やカリブ海各地の奴隷制とは異なる特徴について講演をおこないました。

インド洋西海域では特に長距離の奴隷輸送については、奴隷に特化するのではなく、多様な積荷の一部として奴隷が輸送されてきました。また、大西洋と比べて船舶単位の輸送規模が小さいため、大西洋奴隷交易を題材にしたドラマや映画でよく目にする人が満載されたぎゅうぎゅうの奴隷船のイメージを基にインド洋

西海域の奴隷輸送を想起すると現実とは大きくかけ離れてしまいます。

また、奴隷制については、幾つかの一般的なイメージとは異なる姿を紹介しました。インド洋西海域の諸社会における奴隷の姿は多様です。さらびやかな宝飾品を身にまとう奴隷や王朝を打ち立てる奴隷も存在しました。こうした在り方を理解するためには、奴隷を階層ではなく、むしろ、個人として捉え、その所有者との関係性のなかで個々の奴隷の置かれた状況を理解する必要があります。アフリカ大陸東部沿岸のスワヒリ社会では、スーリアと呼ばれる女性奴隷たちは、所有者男性の富や社会的地位を体現する存在として、さらびやかな宝飾品をまとうわされました。また、インド亜大陸各地の軍事奴隷は、武勲を挙げることでその地位が大きく向上したり、あるいは所有者たる為政者を排して王朝を打ち立てる者も存在しました。



19世紀ザンジバルの奴隷たち  
出典・Charles Guillain, Voyage à la côte orientale d'Afrique, Paris, 1856, Plate 30

会的地位を体現する存在として、さらびやかな宝飾品をまとうわされました。また、インド亜大陸各地の軍事奴隷は、武勲を挙げることでその地位が大きく向上したり、あるいは所有者たる為政者を排して王朝を打ち立てる者も存在しました。

# 公益財団法人千里文化財団 2022年度事業概要報告

国立民族学博物館友の会は千里文化財団が運営しています

国立民族学博物館友の会の活動は、友の会会員のみなさまの会費及び寄附によって支えられています。公益財団法人千里文化財団は、文化人類学・民族学等の振興を図るため、国立民族学博物館をはじめ、関係諸機関と連携し、その普及に努めています。人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献することを目的とし各種事業をおこなっています。

2022年度も、新型コロナウイルス感染症の周期的な感染拡大の影響によりみんぱくの入館者数が伸びず、会員の減少傾向が継続し、また友の会会員対象の海外の研修の旅の実施は見合わせるようになりました。しかしながら制限の緩和により、国内現地訪問(体験セミナー)、見学会等一部を再開することができ、今春開幕した特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」には多くの来館者にお越しいただき、コロナからの回復と新年度(2023年度)への期待を感じることができました。また巡回展を、高知県南国市、石川県七尾市、東京都で実施し、地域の文化振興に貢献した年となりました。

2025年の万博に向けて1970年万博の文化的遺産を繋いでゆくためのシンポジウムではみんぱくとの共催で第2回目を開催するほか、ウクライナ情勢を踏まえた時事的なテーマを講演会や『季刊民族学』で掘り下げました。文化多様性の視点でSDGsを考察する事業として、食資源と食文化の持続可能性を探る書籍『有明海のウナギは語る——食の生態系の未来』、書籍『図説 焼畑の民——五木村と世界をつなぐ』を発行するなど、出版活動も精力的におこないました。



第523回友の会講演会のフライヤー

## 文化人類学・民族学の振興

みんぱくの協力のもと、学術情報を広く一般に提供する各種事業を企画・実施しました。

- ・「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」事業への協力、研究活動の支援  
※上記の一部データはweb上で公開されています。 <http://nresearch.minpaku.ac.jp/umesao-archives/index.html>
- ・家庭学術雑誌『季刊民族学』180号～183号、書籍『有明海のウナギは語る』の編集、発行
- ・講演会を大阪で12回、東京で3回(会場497名、オンライン392名/延べ人数)、国内現地訪問(体験セミナー)を1回実施

## みんぱくの利用促進支援

より多くの方にみんぱくにご来館いただき、活用していただくことを目的とした各種事業を実施しました。

- ・みんぱく友の会、みんぱくキャンパスメンバーズの運営:  
市民による博物館活動への支援と積極的な活用を目的とし、開館当初よりみんぱく友の会を運営
- ・みんぱくの広報誌『月刊みんぱく』の作成支援等(受託事業)
- ・ミュージアム・ショップの運営(みんぱく広報、並びに教材制作及び頒布事業)
- ・オリジナルカレンダー(企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」関連)の制作
- ・来館者の学習支援事業(受託事業): 展示案内学習支援等業務、研究資料整理・情報化及び利用管理業務、民族学資料共同利用窓口業務 ほか
- その他、図録の編集協力、関連書籍の編集及び発行、特別展及び企画展の各種広報活動、館外催しへの協力事業

## 博物館活動支援／地域活性化、文化振興協力事業

みんぱくに集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、博物館を支援する活動を実施するとともに、各種文化活動に協力しました。

- ・2025年大阪・関西万博に向けた事業(みんぱくならびに日本万国博覧会記念公園との連携事業)の実施  
名称:「日本万国博覧会記念公園シンポジウム2022『人類よ、どこへ行く? ポストコロナの世界を占う』」  
開催日:2022年10月29日(土) 参加人数:151名(延べ人数) 会場:国立民族学博物館(オンライン配信の併用)  
主催:国立民族学博物館、共催:大阪府、千里文化財団
- ・各地の博物館等の施設を活用するみんぱく巡回展の開催  
名称:「驚異と怪異——世界の幻獣と霊獣たち」  
会期:2022年4月29日(金・祝)～6月26日(日) 入場者数:12,665名(延べ人数) 会場:高知県立歴史民俗資料館
- 名称:「国立民族学博物館コレクション ピーズ——つなぐ・かざる・みせる」  
会期:2022年7月30日(土)～9月11日(日) 入場者数:3,874名(延べ人数) 会場:石川県七尾美術館
- 名称:「ピース——つなぐ・かざる・みせる 国立民族学博物館コレクション」  
会期:2022年11月15日(火)～2023年1月15日(日) 入場者数:9,455名(延べ人数) 会場:渋谷区立松濤美術館
- ・「世界の文化で遊んで学ぼう! 出前授業プログラム」の企画・実施
- ・各地の博物館展示案内等の編集業務:北海道博物館展示案内『北東アジアの十字路口』の編集協力を受託(日本生命財団)
- ・第31回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託(松下幸之助記念志財団)
- その他、「日本展示学会」の事務業務、「文化財保存修復学会」の事業開催運営業務、同人雑誌『千里眼』の編集及び発行

## 国立民族学博物館友の会 会員数

2023年3月末日時点の会費納入件数  
※登録件数ではありません

維持会員	正会員 (家族会員を含む)	ミュージアム会員	みんぱく フリーパス	キャンパス メンバーズ
90口 法人44社、個人3名	1,291件	143件	97件	7校2学部

## 館内催し 会員先行予約のご案内

みんぱくゼミナール、みんぱく映画会、研究公演には、友の会会員のみなさまを対象に先行予約がございます。  
該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。先行予約枠が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。



館内催しの詳細はこちら！ <https://www.minpaku.ac.jp/event/>

### みんぱくゼミナール

第535回

#### 情報工学研究者のフィールドワーク

講師 宮前 知佐子(民博助教)  
日時 7月15日(土)13:30~15:00(開場13:00)  
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)  
※受付期間は終了しました。

■一般受付  
・オンライン予約  
期間：7月12日(水)まで  
・当日参加受付(定員80名)

第536回

#### 死してなお「生きる」者

——現代イランにおける戦後と殉教者

講師 黒田 賢治(民博助教)  
日時 8月19日(土)13:30~15:00(開場13:00)  
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)  
期間：7月10日(月)~14日(金)

■一般受付  
・オンライン予約  
期間：7月18日(火)~8月16日(水)  
・当日参加受付(定員80名)

第537回

#### ベトナムの黒タイの神話

講師 樫永 真佐夫(民博教授)  
日時 9月16日(土)13:30~15:00(開場13:00)  
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)  
期間：8月10日(木)~18日(金)

■一般受付  
・オンライン予約  
期間：8月21日(月)~9月13日(水)  
・当日参加受付(定員80名)

### お申込方法

#### ■友の会先行受付

【申込先】千里文化財団友の会事務局  
電話 06-6877-8893 (9時~17時、土日祝を除く)

いずれも申込先着順。参加無料。ご本人を含む2名様までお申し込みいただけます。

ただし、みんぱく映画会、研究公演のご参加には、会員証または展示観覧券が必要です。当日11時より会場前にて入場整理券を配布します。

#### ■一般受付

みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。

ご近所さんにも！ ご遠方にお住まいのみなさんにも！

### みんぱく友の会の活用術

\\ /

みんぱくをもっと身近に、より深く  
たのしんでいただくための会員制度  
「みんぱく友の会」。  
ご近所さんはもちろん、ご遠方  
にお住まいのみなさんにも楽しんで  
いただけるような「活用術」をま  
とめてみました。本紙掲載の情報  
とあわせてご活用ください。

#### 館内催しの先行予約枠をご利用いただけます！

▶▶みんぱくゼミナール、みんぱく映画会、研究公演が対象です。【本紙P4参照】

#### 友の会講演会をオンラインでもご視聴いただけます！

▶▶難しい設定は不要です。ただし、一部の講演会は会場のみでの実施となります。【本紙P5参照】

#### 年に数回、東京でも友の会講演会を開催しています！

▶▶みんぱくの研究者や共同研究者が館外で講演します。【本紙P5参照】

#### 『月刊みんぱく』や『季刊民族学』をお届けします！

▶▶刊行物と一緒に展示や催しのフライヤーも同封します。※会員種別により送付内容が異なります。

#### 本館展示の無料入館・特別展の観覧料割引をご利用いただけます！

▶▶展示の見学ばかりでなく、観覧券が必要な館内催しのご参加にも便利です。

## 7・8月のイベントスケジュール

### ■コレクション展

7/6(木)～8/8(火)「ハンターのみた地球」

### ●友の会講演会【オンライン聴講は要事前申込】

7/1(土)北原モコットウナシ・齋藤玲子(＊)

8/5(土)関野吉晴・池谷和信

※8月は終了後、展示見学会あり(要事前申込)

### ●みんなくゼミナール【要事前申込】

7/15(土)宮前知佐子、8/19(土)黒田賢治

### ●みんなくウィークエンド・サロン

7/9(日)寺村裕史、7/23(日)池谷和信

8/27(日)三島禎子

### ●みんなく映画会【要事前申込】

7/29(土)「HARAJUKU 原宿」

### ●その他の催し

・コレクション展関連ギャラリートーク

7/8(土)池谷和信

7/30(日)海部陽介・池谷和信

8/6(日)池谷和信

・7/22(土)みんなく夏休み子どもワークショップ

「フィールドワークに挑戦！」

——見る・感じる・描く オーストラリアの先住民

アート【要事前申込】

・8/5(土)公開シンポジウム

「大エジプト博物館のいま

——ファラオの至宝をまもる2023」(＊)

【要事前申込】

◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがご  
ざいます。また、会場とオンライン配信の併用(＊印)  
で実施する催しもございます。詳細はみんなく、なら  
びに友の会のホームページをご確認ください。

◆イベントの参加には必ず会員証をお持ちください。

### 第84回体験セミナーの募集状況について

9月に予定している第84回体験セミナー「ヤウンモン  
シ(北海道)への旅——アイヌ民族、文化復興のいま」  
は定員になりました。現在、キャンセル待ちのみ受付  
をしています。関心をお持ちの方は、事務局までお問  
い合わせください。

## ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



## 友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

### ■大阪

・会場(定員90名)、オンライン配信ともに事前申込先着順です。

・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。

### ■東京

事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。

(参加費500円)

### 大阪

第539回

【コレクション展「ハンターのみた地球」関連】

## 人類の原点はハンターにあり!

話者：関野吉晴(探検家)、池谷和信(民博教授)

日時：8月5日(土)13:30～15:00(開場13:00)

会場：第5セミナー室

※オンライン配信はございません。

※終了後、展示の見学会をおこないます。会員の方も事前申込をお願いし  
ます(先着20名。要会員証もしくは観覧券。専用受付フォームあり)。

約700万年の人類の歴史のうち、狩猟採集生活の時代が99.8パーセントを占める  
といわれています。この時代に、共感力に富んだ社会性を育んだ人類は、地球全体  
へと拡散することに成功しました。その後、農耕や近代文明を発達させてきました  
が、人間性の基盤をつくった狩猟採集の文化はいまも世界中にみられます。人類  
拡散の旅路を逆ルートからたどった探検家と、世界各地の狩猟採集社会の調査を  
続ける研究者が語り合い、ハンターをとおして人類の普遍性や未来をさぐります。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/539tomo/>

第540回

## パプアニューギニアの貝と石のお金の話

講師：門馬一平(民博 特任助教)

日時：9月2日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

珊瑚礁に囲まれた南洋の小さな島々。貝や石のお金を求めてカヌーで航海する人び  
とが住んでいます。隔絶された環境で、島と島は、人と人は、どうやって繋がって  
いるのでしょうか。彼らの交易を丹念にみつめると、資本主義とは違うもうひとつの経済、  
贈り物の世界がみえてきました。TVディレクターから転身した人類学者が最新の写  
真と映像を交えてお話しします。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/540tomo/>

### 東京

第135回

【特別展「交感する神と人——ヒンドゥ神像の世界」関連】

## 神になる人びと

——南インド・ケーララ州のテイヤム祭祀

講師：竹村嘉晃(平安女学院大学准教授)

日時：9月17日(日)13:30～15:00(開場13:00)

会場：モンベル渋谷店5階サロン(定員50名)

協賛：株式会社モンベル

※オンライン配信はございません。

※6月の東京講演会と会場店舗が異なります。気をつけてご来場ください。

南インド・ケーララ州北部のヒンドゥー世界では、不可触民男性の身体を介して村人  
の前に顕現する神霊(テイヤム)を祀った祭儀が盛んにおこなわれています。本講演  
では、祭儀空間で神霊と交感する村人の様子にふれながら、カーストの伝統的職業  
として神霊の役割を世襲的に受け継いできた「不可触民」たちの今日の姿を紹介し  
ます。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/135tokyo/>

■第535回 ■2023年4月1日(土)

## 「巻ぎ貝の神官墓」は語る

——南米アンデス文明、成立過程の解明に迫る

関雄二(民博名誉教授)

昨年(2022年)の八月末、わたしが代表者を務める国立民族学博物館・ペルー国立サン・マルコス大学合同パコパンパ考古学調査団は、ペルー北高地に位置するカビーヤ遺跡において直径約一メートル、深さ約一・五メートルの地下式墓を発見しました。この遺跡は、調査団が二〇〇五年以来発掘を実施してきたパコパンパ遺跡の西六〇〇メートルほどのところにあります。今回発見した墓の被葬者は男性で、年齢は二〇代後半から三〇代前半と推定されます。



墓に板を渡して、不自由な格好で発掘をするわたし  
2022年9月2日 ©パコパンパ考古学調査団

墓の底には、赤色顔料(おそらく朱)や、遠くエクアドルの暖流域で採れる巻ぎ貝ストロンブス(カブトソデガイ)二〇個が敷き詰められ、貝のひとつには、人間か動物の正面向きの顔と、顔から四方に延びるへびが刻線で描かれていました。遺体は、巻ぎ貝の上に屈葬状態で置かれ、被葬者の顔は、西に位置するパコパンパ遺跡の方を向いていました。パコパンパを含む、巨大な宗教空間で活躍していた神官のような人物だったのでしょうか。

被葬者には、青緑色の石(おそらく珪孔雀石)と貝(未同定)よりなる頭飾りや首飾りが大量に捧げられていました。こうした装飾品は、ストロンブス貝自体にも大量に捧げられており、貝も重要であったことがうかがわれます。

この墓は、これまで調査団が発見した金製品を伴う墓よりも五〇〇年も前のものです。アンデス文明における権力者の誕生時期を大幅にさかのぼらせる発見といえます。今後は、この被葬者の骨や副葬品を分析し、文明の形成過程の解明につなげていくつもりです。

被葬者には、青緑色の石(おそらく珪孔雀石)と貝(未同定)よりなる頭飾りや首飾りが大量に捧げられていました。こうした装飾品は、ストロンブス貝自体にも大量に捧げられており、貝も重要であったことがうかがわれます。

■第536回 ■2023年5月6日(土)

## ラテンアメリカの民衆芸術

——キュレーションの挑戦

鈴木紀(民博教授)

二〇二三年春に開催された特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」のキュレーションの過程についてお話ししました。準備期間は二〇二〇年一二月からおよそ二年余り、この間、①展示のコンセプト作り、②展示作品の選定、③展示場の設計、④図録・ポスター・チラシの制作、⑤関連イベントの企画、⑥広報などの作業をおこないました。このような多様な活動は実行委員長のわたしが孤軍奮闘してできるものではなく、みんぱく内外のさまざまな部署や専門家とともにチームワークで取り組む必要がありました。

わたしが教員として担ったのは①です。専門のラテンアメリカを対象



特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」  
展示準備風景  
撮影・鈴木紀、2023年

とすることは、はじめから決まっていたのですが、民衆芸術に焦点をあてること、そしてそれをどのように解して何を展示するかを考えるためには、それなりの研究が必要でした。みんぱくの企画課本資料係には②を、企画課展示企画係には③を、企画課博物館事業係には⑤を、総務課広報・IR係には⑥をそれぞれサポートしてもらいました。また展示デザイナーの上まりこ氏には②と③を、シルシ・デザイン・ファクトリーには④を、千里文化財団には⑥についてご支援をいただきました。

わたしも含め、みんぱくの教員の多くは正式な学芸員のトレーニングを受けていません。それにもかかわらず、展示を担当することがあります。それが可能なのはこうしたチームワークが機能するからです。今回の特別展を経験し、展示は、論文執筆や著作発表と同様、みんぱくの教員に与えられた研究成果公開の重要なメディアであることを実感しました。

本紙掲載の情報は、2023年6月21日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。  
**国立民族学博物館友の会**  
公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)  
電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)  
FAX：06-6878-3716  
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ  
<https://www.minpaku.ac.jp>



Facebook  
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ  
[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/)



Facebook  
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>